

■ 平成 29 年度 第 2 回 新潟市スポーツ推進審議会

日時：平成 30 年 3 月 22 日（木）午後 2 時から

会場：新潟市陸上競技場 第 3 会議室

（司会：寺崎）

平成 29 年度第 2 回新潟市スポーツ推進審議会を開催します。本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。進行を務めます、審議会事務局スポーツ振興課長補佐の寺崎と申します。よろしくお願いいたします。

はじめに、本日の配付資料を確認させてください。まず、会議次第、席図、出席者名簿、フィギュアスケート・ロシア選手平昌 2018 冬季オリンピック直前・期間中合宿実施概要、事前に送付させていただいた平成 30 年度スポーツ振興課の当初予算、それから第 2 次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画（2 期）。以上ですが、よろしいでしょうか。このたびでき上がりました、来年度の新潟シティマラソンのリーフレットを参考までにお配りしておりますので、後ほどご覧いただきたいと思います。

続いて、定足数の確認です。本日は 18 名の委員のうち 12 名が出席されています。新潟市スポーツ推進審議会条例第 7 条第 2 項の規定により、過半数の出席を得ておりますので、本会が成立いたしますことをご報告いたします。

なお、本審議会は新潟市附属機関等の会議の公開に関する指針に基づき、原則として公開となり、会議録については、後日、市のホームページに掲載しております。会議録作成のため、本日の会議を録音させていただくことをご了承ください。なお、本日、報道機関の方が入っておりますので、途中、写真撮影がある場合がありますが、ご承知おき願います。

それでは、はじめに、渡邊スポーツ振興課長からごあいさつ申し上げます。

（事務局：渡邊）

皆様、お疲れさまでございます。今日は雨の中、大変お忙しい年度末にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。お礼申し上げます。

今日のスポーツ推進審議会ですけれども、今年度第 2 回目ということで、内容については次第に記載のとおりでございますけれども、平成 30 年度の新潟市のスポーツ振興施策がどのようなになっているかを、まずはご覧いただくということと、あとは、記憶に新しいところで、この 2 月に、1 月末からなのですけれども、ロシアのフィギュアスケートの平昌 2018 冬季オリンピックに出場する選手たちが新潟で合宿していただいたということで、あちこちで取り上げていただけたところです。そのときの様子なども報告させていただきながら、今日は進

めさせていただきたいと思います。

平昌での冬季オリンピックは終わりましたが、冬の次は2020年東京オリンピックということで、我々もその年度に向けてさまざまな取組みをしていく必要が出てくると思います。以前にもお話ししましたが、平昌冬季オリンピックは丁度種まきをしている時期だと申しあげましたが、少しその芽が出てきているころかなというところで、これを育てていく時期がこれから来年度、再来年度という形になるのではないかと思いますので、そのところは皆様のご意見などもお聞きしながら、ぜひ、よりよい施策を進めていければと思っておりますので、また忌憚のないご意見を頂戴できればと思っております。今日は大変ありがとうございます。私からのあいさつに代えさせていただきます。

(司会：寺崎)

続きまして、スポーツ推進審議会の西原会長よりごあいさつをお願いいたします。

(西原会長)

皆さんこんにちは。本日は、足元の悪い中お集まりいただきまして、大変ありがとうございます。私は少し渋滞で遅れてしまいまして、申し訳ありませんでした。

今ほど課長からありましたように、平昌オリンピック・パラリンピックが終わりまして、2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。一方、第2期のスポーツ基本計画が国で定まりまして、これからの5年間、特に東京オリンピックが終わったあとですけれども、どういう国づくりをしていくかということを決めております。

その中で、新潟市がどういった立ち位置でスポーツ振興をしていくのかということがこの審議会で問われることとなりますので、どうぞ忌憚のないご意見をいただき、特にオリンピック・パラリンピックが終わったあと、2020年以降の姿を描かなければいけないのではないかと思いますので、意見をいただければと思います。今日はどうぞよろしくをお願いいたします。

(司会：寺崎)

ありがとうございました。

ここからの会議進行については、審議会条例第6条第3項に基づき、西原会長をお願いいたします。

(西原会長)

それでは、ご指名ですので、議事に入りたいと思います。報告の(1)「平成30年度スポーツ振興課当初予算について」、事務局から説明をお願いします。

(事務局：渡邊)

事務局から、平成30年度スポーツ振興課当初予算について説明させていただきたいと思

ます。資料ですけれども、事前にお配りしておりますが、平成30年度スポーツ振興課当初予算と書いてありますA3縦の資料です。あと、第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画（2期）をご確認いただきたいと思います。

説明させていただきます。まず、新潟市スポーツ推進計画である第2次「スポ柳都にいがた」プランについては、計画を着実に実施するために、すでにご承知かと思いますが、健康スポーツ、競技スポーツ、見るスポーツ、支えるスポーツの四つの基本方針と、それぞれの分野にまたがるスポーツ情報ネットワーク、そしてスポーツ医科学支援体制の五つを柱としまして推進することにしております。その具体的な施策や事業を明らかにするために、実施計画を2年ごとに作成しております。今年度は平成29年度と30年度を期間とする実施計画、第2期ですけれども、これを策定いたしまして、第1回目の審議会に諮らせていただきました。これから説明します平成30年度当初予算については、実施計画と同じ順にそれぞれの基本方針ごとに説明させていただきたいと思います。

それでは、平成30年度スポーツ振興課当初予算、A3縦の資料をご覧くださいと思います。こちらは基本方針ごとに各事業をくくっておりますので、実施計画、第2期と合わせてご覧ください。まず、一番下の業務の合計額をご覧ください。当初予算は全体で6億1,995万8,000円、前年度比で7,275万2,000円の増となっております。増額の主な理由としては、支えるスポーツのスポーツ施設管理運営整備として計上しました、約1億8,800万円の増額によるものです。具体的には、遊水館のプールのろ過設備改修工事あるいは新潟市陸上競技場の放送設備等の改修工事など、主に五つの施設の緊急修繕工事に係る経費です。

上から順に説明させていただきます。はじめに、人件費については、スポーツ振興課の一般職員14名と非常勤職員1名の人件費です。以下、金額は記載のとおりですので、金額の読み上げは省略させていただきます。

次に、健康スポーツ、生涯にわたるスポーツ活動を推進しますというところの事業です。まず、新潟シティマラソンについては、国内外から約1万2,000人のランナーを募集しまして、第36回目となる大会を開催して、市民の健康増進や交流人口の拡大を図ってまいります。前年度比で930万円の減額となっておりますけれども、前年度は新コースの策定に係る経費があったため、その分が減額になったものです。

続いて、少年少女スポーツ大会です。こちらは夏休み中における児童の健全育成を目的として、小学生を対象として野球、サッカー、ミニバスケットボール、バレーボールの4競技のスポーツ大会を開催するものです。全市的な事業の見直しの中で、この事業は受益者負担の適正を図るということで、参加料を、これは大変心苦しいのですけれども、1チーム当たり1,000円頂戴していたものを2,000円に増額させていただくことしております。

続きまして、早起き野球大会と次の自転車活用事業です。これは新潟シティライドであるとか新潟ヒルクライムといったスポーツイベントになりますが、これらの市民の生涯にわたるスポーツ活動の推進を図るための経費となっております。特に、新潟市早起き野球大会は、前年度に全国大会が開催されております。今年度はありませんので、その分の100万円が減額になったということです。自転車活用事業についての額の変動については、全市的な事業の見直しの中で、大会開催に係る運営費を見直させていただいた結果、143万円減額となっております。

続きまして、氷上スポーツ体験学習については、新潟アサヒアレックスアイスアリーナを活用して、市内小学校の校外活動による利用への助成を行うなど、氷上スポーツ愛好者の底辺拡大を図ってまいります。なお、当事業に係る支出額全額については、新潟アサヒアレックスアイスアリーナのネーミングライツを充当します。

続きまして、競技スポーツです。まず、新潟市体育協会補助金ですが、これは新潟市体育協会の運営費やジュニア選手育成強化などの事業に対する補助金となっております。続きまして、国際大会等出場選手激励費については、国体や海外の国際大会に出場する選手や全国大会に出場する小中学生に対して激励金を支給するものとなっております。このたびの見直しによりまして、障がい者スポーツ全国大会の参加激励金と支給基準の統一を図ったところです。結果としては、ジュニア全国大会出場の支給金額が1万円から5,000円になったということですが、その一方で、障がい者スポーツの国際大会に出場する選手の激励金については1万5,000円から3万円に増額になりました。この事業についても、支出額全額について、新潟アサヒアレックスアイスアリーナの命名権料を充当してまいります。

次に、氷上スポーツジュニア選手育成事業です。こちらはフィギュアスケート、アイスホッケー、カーリングなど、氷上スポーツの競技力向上を目的として、指導者や選手を対象とした実技指導会や講習会等を開催するものです。こちらについても、新潟アサヒアレックスアイスアリーナの命名権料を充当してまいります。

次に、障がい者スポーツ大会関連事業費です。こちらは全国障がい者スポーツ大会に新潟市の選手団ということで派遣しておりますけれども、それによりまして障がい者スポーツの振興と競技力の向上を推進してまいります。

次に、「目指そう、支えようパラリンピアン」障がい者スポーツ推進事業です。こちらについては、今年度、5月に第14回日本車いすカーリング選手権大会を新潟で開催しますので、それに係る経費ですとか、あと、パラリンピアンによる障がい者スポーツ体験会、もしくは講演会などを開催することによりまして、障がい者スポーツの普及促進を図ってまいりたいと考えております。

続きまして、見るスポーツです。最初に、新潟市ドキドキ・ワクワクスポーツふれあい促進事業です。こちらは小学生を対象としたサッカー教室や中学校部活動への指導者派遣などを実施し、技術レベルの向上やプロ選手との交流を図るほか、サッカー、野球、バスケットボールのホームゲーム親子観戦招待を行いまして、見るスポーツの普及を推進いたします。

次に、プロ野球招致推進事業です。こちらは官民一体となって取り組んでおりますプロ野球新潟招致委員会の一員として、私ども新潟市も入っているわけですが、こちらの取組を推進してまいります。内容としては、プロ野球公式戦の観戦招待などの経費となります。

次に、ナショナルチームの合宿誘致と、下のオリンピック・パラリンピック競技大会に向けた合宿誘致です。こちらは新潟市文化・スポーツコミッションと連携してナショナルチームの合宿誘致に努めてまいります。今年度はこの2月に、先ほど申し上げましたが、平昌冬季オリンピック・パラリンピック競技大会において、ロシアからのオリンピック選手の事前合宿を受け入れたところでございます。平成30年度の事業については、昨年登録しましたフランスホストタウンということで、国の政策ですが、フランスを登録しておりますけれども、そちらからの合宿受け入れということで、交流事業なども含めて実施しまして、関係者へのPR、そして事前視察といったものの受け入れを進めていくことにしております。平成30年度の予算については、具体的な合宿の経費ではないのですが、役員の視察受入も重要な業務ですが、そのための経費を計上しております。

次に、氷上スポーツのイベント開催とオリンピックムーブメントの推進ですが、こちらは東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、機運醸成として、オリンピックによる各種スポーツブースなどを開催してまいります。なお、ナショナルチームの合宿誘致と氷上スポーツイベントの開催については、先ほどから出ておりますけれども、これも新潟アサヒアレックスアイスアリーナの命名権料を充当することにしていきます。

見るスポーツの最後ですが、国際ユースサッカーin新潟は今年度も行っていますが、海外2チーム、日本代表、県選抜といったユースのサッカー選手たちによる大会を新潟で開催しているところで、その開催を支援していくことになっています。

次に、支えるスポーツです。まず、スポーツ施設の管理運営についてですが、これはスポーツ施設の整備と一緒にありますが、これについては、当課が所管しております新潟市陸上競技場と新潟市体育館の指定管理料や施設用地の賃借料です。スポーツ施設の整備の部分については、先ほども申し上げましたが、遊水館のプールのろ過設備改修工事、そして市陸上競技場の放送設備等の改修工事がこちらに計上されております。

次のスポーツ・音楽功労者表彰ですが、これは、昭和43年に新潟市はスポーツと音楽都市宣言を行ったわけですが、それを記念しまして、市のスポーツ・音楽の振興に寄与さ

れた方を毎年表彰させていただいているものです。このたび、全市的な事業の見直しが行われた中で、表彰式の会場はこれまでホテルなどで行っていたのですけれども、それを市役所庁舎の中でやるということにするなど、あるいは、表彰式の中身も若干見直しを行う中で、経費の節減を図ったものです。

次のスポーツ推進委員関係については、スポーツ推進委員の皆様の人件費や研修費などです。

次の「スポ柳都にいがた」プラン推進事業ですが、これは審議会内に設置したスポ柳都にいがたプラン推進会議とか、子どもの指導者育成を目的とした指導者研修会の開催経費となっております。

次に、スポーツ情報ネットワーク、スポーツ医科学支援体制ですが、こちらの項目は一つだけですが、目指せオリンピック！ 医科学サポート事業です。これは審議会の皆様からご提案いただいた事業です。平成 29 年度から、新潟市体育協会の補助金に併せた形で支出させてもらっている経費でございます。トップジュニア選手の育成を行う現場にスポーツトレーナーを派遣しまして、障がい予防であるとかコンディションの調整、効果的なトレーニング指導などを行うことによって、選手のスポーツ活動をサポートする事業を実施しているところです。

最後に、スポーツ振興諸経費です。スポーツ推進審議会関係経費についてはこちらの審議会に係る開催経費、そして最後の大会補助金負担金事務費については、例えば、新潟県縦断駅伝競走大会とかそういったものへの補助金とか県の体育施設協会の負担金といった事務費がこちらに計上されています。

大変長くなって申し訳ありません。来年度当初予算の概要としては以上のとおりです。

(西原会長)

ありがとうございました。

それでは、委員の皆様からご意見、ご質問等ありましたらお願いします。

(事務局：渡邊)

補足ですけれども、今ほど駆け足で私のほうでしゃべらせてもらったので、何が何だか分からない状況かもしれません。申し訳ありませんでした。

今、説明させてもらった中で、新潟市全体の今回の予算の中で、市全体の中での重点事業として、今回選ばれたものが、オリンピック・パラリンピックに向けた合宿誘致と、「目指そう、支えようパラリンピアン」障がい者スポーツ推進事業の二つが市全体としても推していく事業となっております。

オリンピック・パラリンピックに向けての合宿誘致は全国の自治体が競って手を上げはじ

めているところですので、そういったところの地域間競争という例もありますけれども、どれだけの効果があったかは、ある意味で今回のロシアのフィギュアスケートの合宿を見ていただくと分かるかと思います。今回は金メダル、銀メダルを取った優秀な選手においでいただけたので、そういう意味でも注目されたところでもあるのですけれども、その地域にゆかりのある国からメダルとか候補になるような選手がいらっしやることによって、そうとうその地域の名前も、全国にも世界にも知っていただくことができますし、併せて、練習環境、スポーツする環境のよさも同時にPRしていけるのではないかとということで、そういう点で、非常に大きな効果がある事業だと思います。

あとは、障がい者スポーツ推進事業ですが、これまで、どちらかという市の内部でも福祉分野が所管していた部分でもありましたので、スポーツという側面からの強力な推進というのは、どちらかという、今まで不足していたのではないかとということもあります。競技スポーツになるとまた少し違いますけれども、今後は、パラリンピックも注目されてきている中で、そして健常者も障がい者も一緒にスポーツを楽しんでいく、一緒になって取組んでいけるといった機運醸成にもつながるのではないかとということで、こちらの施策についても市としても推進していきたいと考えております。こういった柱をもって新年度取組んでいければと考えています。

もちろん、それ以外にも、多くの市民の皆さんが参加する、早起き野球であるとか少年少女スポーツ大会であるとか、そして新潟シティマラソンもそうですけれども、これはボランティアの皆さんにもどんどんかかわっていただくような、新潟市民全体を巻き込んだ形での大イベントになりますけれども、こういったものも大切にしながら進めてまいりたいと思います。

(西原会長)

ありがとうございました。

今ほど詳細に詳しくご説明がありました点も含めまして、いかがでしょうか。

(青野委員)

オリンピック・パラリンピックの合宿誘致ということで、競技スポーツの氷上スポーツジュニアの育成等で予算が大変増額されていると思います。先ほどご説明がありましたように、指導者、選手の強化という形で、外国の合宿、素晴らしい選手たちを、例えば、小学生たちがその練習風景等を見て、自分が実際にやってみたいという場面に遭遇したときに、指導者とかクラブであるとか、ジュニアを育成する組織とかそういうところに予算が使われていくかと思うのですが、ジュニア育成というのは時間がかかると思いますが、その辺の組織立った育成事業がなされているのかどうか、ご説明、補足いただければありがたいと思います。

(事務局：渡邊)

今ほどおっしゃったような形で、ジュニアの選手の皆さん、ジュニアですからまだ始めていないくらいの方でも、例えば、今回は公開練習もやりましたので、オリンピックの選手たちを間近で見て、やってみたいと思われた方もたくさんいらっしゃるのではないかと思います。もちろん、そういった方々を新たに受け入れるということであれば、新潟アサヒアレックスアイスアリーナでも教室などをやっていますし、新潟アサヒアレックスアイスアリーナを練習場所としているクラブチームもいくつかあります。そういったところに入っていれば、きちんとした、本当に低年齢の方から受け入れをしていただいていますので、きちんと組織立ったというか、クラブの中できちりと教えていただけるかと思います。

そして、実は、あまり今の表とかには出てこないのですけれども、昨年度、私も、新潟市陸上競技場、新潟市体育館そして新潟アサヒアレックスアイスアリーナもそうですけれども、広告を出そうかと思っています。いろいろな企業から名前を出して広告料をいただくという形で、広告収入なども予算計上しています。新潟アサヒアレックスアイスアリーナについても、できればそういった広告収入で得たものをジュニア選手なりあるいは新潟アサヒアレックスアイスアリーナを専用利用されているようなクラブチームといったところの活動支援に収入を回せるようにできればと思っています。まだ具体的にどういったスキームでどういった事業にお金を当てるかは決めていない状態で、今後、その辺は検討させてもらいたいと思いますけれども、そういった形で進めていきたいと考えています。その取組みが軌道に乗っていけば、よりそういった新しい方にも滑ってもらいやすいような環境になるのではないかと思います。

(西原会長)

私から関連して、先ほどのネーミングライツで、アイススケートリンクを、今、契約期間中ですよ。もうネーミングライツを取っていいのですか。

(事務局：渡邊)

今、ここの予算で上がっている、私が先ほど申し上げましたネーミングライツは、すでに新潟アサヒアレックスアイスアリーナがオープンしたときに契約しているアサヒアレックスからのものです。

(西原会長)

実は、新潟市文化・スポーツコミッションのときにその議論が少しあったのですけれども、せっかくロシアの選手たちがここでやってくれたから、選手名を冠につけるというのも一つではないかということがあって、もっと言うと、スケート教室の名前に選手の名前が冠にあたりすると、子どもたちが、ここでスケートをやったロシアの選手たちがオリンピックに

出て金メダルを取ったと。その金メダリストの名前がついたクラブチームで育った子どもたちが、やがてオリンピックに出るというストーリーはあるのかなと思ったりして、少し現実的ではないかもしれませんが、もし検討できるのであれば、少しやってほしいなという思いがあるのです。そうすると、あそこで見た子どもたちが、実際にそういったものを身近に感じるのではないかと思います。その辺はどうですか。

(事務局：渡邊)

大会とか教室でも選手の名前を冠につけるとするのは非常に効果があるのではないかと思います。

ただ、どうしても固有名詞をつけるとなると、選手たちの許可なども必要になってくるので、その辺りでどれだけそういったことが進められるかは分かりませんが、一つ、今回のロシアのフィギュアスケートの合宿で、新潟アサヒアレックスアイスアリーナで練習した証しというか、写真とかをうまく使って、新潟アサヒアレックスアイスアリーナの中で展示したりできないかということで、今、私どものほうでも考えさせてもらっています。それを見てもらうことによって、あの選手があそこで練習していたということ、新しく来られたお客様にも見ていただけるでしょうし、そういったPRをどんどんしていくのは大事だと思っていますので、それはやっていきたいと思っています。

(速水委員)

スポーツ推進審議会ということで、お聞きしたいと思うのですが、今、学校の部活動がいろいろな意味で話題になっています。それと競技力向上、選手強化の関係と申しますか、分かる範囲でいいですが、部署が違えばそれで終わりなのですか、その辺が一つと、新潟シティマラソンとか障がい者スポーツの全国大会の支援ですか、ここに入っているもの。その辺のところで、新潟市に対して、言葉は悪いですが、どれくらい経済効果、お金が落ちてくるのかということも一つ興味があるのですが、その辺のお話ができたら、できるだけいいです。

(事務局：渡邊)

最初の質問については、部活動の指導者の問題がけっこう大きく言われていると思います。そこはこれまでも、私ども市長部局のスポーツ振興課と教育委員会は、その辺りの情報の共有が難しかったのかなと思います。そこは両者それぞれある程度思うところをお互いに意見交換して、できるところはやっていくことが必要だと思います。これは前から言われている話なのですが、まず一つあると思います。

あと、マラソンなどの経済効果については、厳密な算定はしていませんけれども、一応、数字としては、ざっくりとですけどもありますので、担当の田中補佐から説明させていた

だきます。

(事務局：田中)

シティマラソンはスポーツ振興課の事業の中では国内外、県外からのお客様も来ていただける一番大きなものではないかと思います。昨年度の実績ですと、正確な数字ではないのですが、三千人くらいの県外からのお客様に来ていただきました。そして、ランナー一人一人からのアンケートで出した正確な数字ではないのですけれども、経済効果を測定できるような新潟県のツールでは約5億円という試算が出ております。新しいコースになったということで、去年は過去最高の県外客の方が来てくださったということもあって、旧コースのときの算定では約4億円という数字だったのですけれども、昨年度の大会では県外のお客様が多かったということで、約5億円と、こちらで一応目安の数字を出しています。

(速水委員)

5億円が落ちたということですか。

(事務局：田中)

はい。

(西原会長)

こういうものもいろいろな算定の仕方があります。単純にお金を落としてくれた分と、あとはそこから経費を引いた分をどう考えるかといういろいろあると思うのですが、今回は単純にどれだけのお金を新潟市に落としてくれたかということですね。

あと、部活動も、今日は教育委員会の方がいらっしゃらないですけれども、部活動も地域の中に落としていくとか、マルチスポーツクラブを作るとか、中学校の重点化した種目にしようとかいろいろな動きがありますので、もしでしたら、その辺をきちんとやっていただければと思います。

ありがとうございました。それでは、報告事項の(2)ロシアフィギュアスケート選手のオリンピック事前合宿について、事務局よりご説明をお願いします。

(事務局：渡邊)

担当の中村主幹から、話を交えながらスライドを見ていただければと思いますので、よろしくをお願いします。

(事務局：中村)

会議の冒頭で課長から話がありましたとおり、1月から2月にかけてフィギュアスケートのロシア選手が平昌オリンピックに向けて直前・期間中の合宿をしていただきました。その実施概要をパワーポイントと、そのときの様子の写真のスライドショーの2部構成で説明したいと思います。よろしくをお願いします。

お手元に資料があります。まず、項目としては、なぜロシアだったのか、開催期間、参加者、新潟市への来市方法、大会成績、市民交流、通訳ボランティア、市役所内部の推進体制、付帯施設など、あと、マスコミ取材関係の話をさせていただきたいと思います。

最初に、なぜロシアのフィギュアスケートだったのかということです。ご承知の方もいらっしゃると思うのですが、本市はロシアのハバロフスク市、ウラジオストク市、ビロビジャン市と姉妹提携をしており、古くから交流が盛んです。2014年に国際規格のリンクがある新潟アサヒアレックスアイスアリーナがオープンしました。それに伴いまして、新潟市文化・スポーツコミッションで日本スケート連盟に対して施設のPRと、日本、海外を含めてナショナルチーム合宿の誘致活動を行ってまいりました。

そのような中で、2016年7月にロシアのフィギュアスケート連盟から、2018年にある平昌オリンピックに向けて合宿地を探しているという情報を日本スケート連盟からいただきまして、正式に誘致活動を進めることになりました。2016年11月と昨年4月にロシアのフィギュアスケート連盟の役員、専務の方、副会長の方などから会場を視察していただきまして、意見交換を行い、2017年10月に覚書を締結し、合宿の開催決定に至ったところです。

各種報道等でご承知の方もいらっしゃると思うのですが、開催期間については、実際に新潟アサヒアレックスアイスアリーナで練習を行ったのは1月29日から2月17日土曜日の20日間です。滞在期間については1月28日から2月18日の22日間、新潟にいらっしゃいました。参加者については、ロシアのフィギュアスケート連盟の副会長をチームリーダーとする選手13名、合計32名、延べ宿泊数にしますと446泊、一人平均14泊していただきました。選手とか役員それぞれで最初から入ってきて、最後までいらっしゃった方もいましたし、途中で入って期間の途中で平昌に行くとか、最初に来て途中で抜けてまた新潟市に戻ってくるとかいろいろな選手がいましたけれども、22日間の内、平均で一人14泊していただきました。

新潟市への来市・離市方法、どうやって新潟に来られたか、どうやって新潟から離れたかのまとめです。ロシアから最初に来る方が成田経由で来られました。国内線の成田発新潟空港着で来られた方が延べ人数で29名です。新幹線で来られた方が1名です。韓国仁川から新潟空港が、先ほどお話しした、途中で平昌に行って、具体的に言うと、団体戦が先にありましたので、団体戦に出るために一度平昌に行って、個人戦まで日にちがある方が戻ってきたということで、延べ10名です。参加者が32名ですが、延べでいうと40名になります。

離市については、役員というかスタッフの方で平昌入りしない方も新潟市にいらっしゃいました。その方が6名です。あと、平昌の大会に行かれる方については新潟・仁川便で34名の方が出発されました。

参加選手・大会成績についてお話しします。女子シングルは、ご承知のとおり、アリーナ・ザギトワ選手が個人戦で金メダル、エフゲニア・メドベージェワ選手が個人戦で銀メダル、マリア・ソツコワ選手が個人戦で8位入賞ということで、団体戦が銀メダルでした。

続いて、男子シングルです。4名の選手が来られました。コリヤダ選手とアリエフ選手が個人戦で入賞されました。

アイスダンスについては、2組4名の選手が来られました。ボブロワ・ソロビヨフ組が個人戦で5位入賞されました。上に名前が書かれている選手が女性、下が男性です。

最後に、ペアの選手です。1組2名の選手が来られました。今回、ロシアから平昌オリンピックに出場するフィギュアスケートについては、ペアの2組が福岡市内で合宿を行ったようで、新潟には1組来られました。

20日間の期間中、市民交流などのイベントをさせていただきました。オリンピック本番に向けて直前という中で、ロシアのフィギュアスケート連盟の厚意により、市民交流等をやらせていただきました。まず、第1陣が来た次の日、1月29日にいた選手、第1陣で来られた選手32名の内、その日にいた選手・コーチなど22名をお招きして、レセプションを行いました。新潟市からは新潟市と西蒲区のたくみファームで作られたミニトマトを贈呈いたしました。そして万代太鼓を披露していただきまして、レセプションを行わせていただきました。

続いて、ふれあい会ということで、写真撮影会を2月3日土曜日に行いました。申し込みについては、一般公募で抽選で50組とさせていただいて、受付期間25日から28日まで4日間だったのですけれども、1,167名の方からお申し込みいただきまして、約11倍の競争率ということで、抽選の結果43組102名の方からいらしていただきました。市内の方が約7割、残り3割が市外県内、県外。県外の方からも1割来ていただきました。ふれあい会に参加していただいた選手は、男子シングルの3名の方に写真撮影会に参加していただきました。

続いて、公開練習は2月3日土曜日と4日日曜日の2日間行いました。これについては、各日先着400名、施設の2階の観覧席のキャパシティの関係で400人とさせていただきました。1日目が153組361名、2日目は156組361名の方からいらしていただきました。これは合計で約700人強ですけれども、2日間の参加はだめですということで、いずれかの日に来てくださいということで、実人数でも700名ちょっとの方から見ていただきました。公開練習については、午後の部、女子シングル、男子シングル、アイスダンスペア、その日にいた選手の皆さんに滑っていただいて、市内、県外を含めてご覧いただきました。申し込みについては、開始から5時間、朝8時から受け付けを開始したのですが、お昼には受け付けを終了してしまうということになりました。

スケート交流ですが、フィギュアスケートの教室を行っていただきました。こちらは2月

5日と6日の2日間開催しました。対象者は新潟アサヒアレックスアイスアリーナを拠点に活動しているジュニアアスリートということで、初心者から上級者を含めて、小中高校生ということで、活動している方です。実績としては37名、これは参加できるジュニアアスリート全員に参加していただきました。上級、中級、初級という感じで3組に分かれて、コーチをしていただいたのがペアのアスタホワ選手とロゴノフ選手と、そのペアのコーチであるアルトゥール・ドミトリーエフコーチです。左側に写っていますけれども、長野オリンピックのペアの金メダリストからフィギュアスケート教室をやっていただきました。

今回、ロシアの選手たちを受け入れるに当たりまして、通訳のボランティアに活躍していただきました。公式通訳としては国際課の職員と残り3名の方から選手団についてもらって、事務局とのやり取り、要望の聞き取りということで、3名の方からやっていただきました。通訳ボランティアについては、大学生でロシア文化やロシア語を学んでいる学生と、民間の交流の市民団体の方からも参加していただいて、ロシア語の日常会話のサポートということで、22名の方で20日間で延べ人数143名、合計164名のボランティアに活躍していただきました。

庁内推進体制ですが、市役所の中で全庁的に市として取組む必要があるということで、庁内連絡会議を設置いたしました。構成メンバーとしては、ここにあるとおり、12課で組織して情報共有、連携ということで、市役所一丸となって今回のロシア合宿を連携で推進いたしました。

練習附帯施設等ということで、今回、ロシアの合宿に当たりまして、サブリンクを床養生しました。新潟アサヒアレックスアイスアリーナにはメインリンクとサブリンクの二つあるのですが、主にカーリングをするようなサブリンクについては氷の上に板を敷いて陸上練習、スケート靴を脱いでジョギングシューズとかランニングシューズでウォーミングアップができるような床養生をしました。あと、右側にメドベージェワ選手が走っていますけれども、ランニングマシンを2台仮設しまして、そこでも練習はじめや練習終わりのトレーニングに使っておりました。そのほか、トレーニングジムということで、新潟アサヒアレックスアイスアリーナのすぐ近くにある新潟テレサフィットネスセンターとか、ホテルの近くでもトレーニングをしたいということで、新潟市陸上競技場トレーニングセンターを提供し、使っていただきました。

あと、おもてなしとして、基本的なところになりますが、市内観光パンフレット・マップを配布し、いろいろ散歩していただきました。マリニピア日本海や新潟市マンガ・アニメ情報館の招待券をお配りしまして、それぞれ見学していただきました。

マスコミ報道の関係なのでありますが、基本的には練習は非公開で行われたのであれど

も、第1陣が来られた際や市民交流、あと、市長による激励訪問などを報道機関に公開しまして、地元の報道機関だけではなく、在京も含めて、延べ約90社の取材がありました。メディアには、地元の新聞やテレビニュースだけではなく、TBSや読売テレビ、テレビ朝日といった全国ネットのニュースやワイドショーでも本市が紹介され、新潟の魅力を全国的に発信することができたのではないかと考えております。

あと、ロシアの選手団のスタッフなどがロシアの報道機関にいろいろインタビューを受けていたようで、新潟でのおもてなしの様子とか環境などがロシアのニュースサイトにも報道されておりました。

これで概要についての説明を終わります。

これから、合宿のときの写真をまとめましたスライドショーをご覧いただきたいと思いません。音はないのですけれども、ご覧ください。

こちらは4月に視察に来ていただいた際の新潟アサヒアレックスアイスアリーナの様子になります。

市長へも表敬していただきました。

これはホテルの中ですけれども、意見交換をさせていただきました。

これは第1陣が来られたときの歓迎セレモニーということで、報道機関にも公開いたしました。ようこそ新潟へという横断幕を掲げながら、笹団五郎の着ぐるみもお出迎えしました。

これは最終組が来たときです。

これは歓迎レセプションの様子になります。メドベージェワ選手と、右側が今回のチームリーダーになった連盟の副会長になります。乾杯を在新潟のロシア総領事にしていただきました。万代太鼓を披露しました。選手の方からも実際に叩いてもらって経験していただきました。インタビューのような形で紹介させていただきました。

ペアの選手と、真ん中がコーチです。それぞれ新潟アサヒアレックスアイスアリーナで練習していただきました。男子、女子、あと二人組ということで、3組に分かれて時間差で1時間半くらいずつ、午前1回、午後1回という形で練習していました。これはペアの選手です。

これはふれあい会、写真撮影会の様子になります。下が黒いですが、これは床養生したところで、サブリンクの中です。床が黒くなっていて、普通の靴で行けるような形です。

こちらは一般公開の様子になります。2階の観覧席が450人くらいは入るのですけれども、400人でかなりいっぱいいっぱい、満員で行われました。

こちらはスケート交流の様子になります。右側がペアの男子の選手です。この右側が女子です。それぞれ間に通訳を入れながら、もしくは通訳なしで身ぶり、手振りという感じで

教えていただきました。最後に3組それぞれで記念撮影をして終わりました。予定よりかなり長い時間していただきました。2日目に上級のクラスだけ陸上練習ということで、していただきました。

合宿の期間に市長が激励訪問ということで、左側がザギトワ選手、右側がメドベージェワ選手です。

合宿期間中は一般営業できませんでしたが、屋外にアイスアリーナを造って一般営業しました。

これは団体戦が終わって女子の選手とアイスダンスの選手が1回新潟に戻ってきたときの様子です。

これはボランティアの方々です。学生を中心にそれぞれ通訳に入っていました。

最後は連盟の副会長です。

これについては、新潟アサヒアレックスアイスアリーナの電光掲示で新潟は皆さんを応援していますということで、映しながら練習していただきました。

(西原会長)

今、ご紹介いただきましたが、この点について何かご意見がありましたらお願いします。感想等でもけっこうです。

(小島委員)

今回のロシア選手を招致したことについての感想です。私もタイムリーに見ていました。新潟市民としてとてもうれしかったし、多分、私だけではなく、市民の方々は本当にうれしかったと思います。そういう意味では、こうやってロシアの選手を招き入れることができたのは大成功だったと思っています。こちらにも書いてありますけれども、全国の皆さんに新潟市、なかなか新潟市民の人は新潟市はいいよと自分たちから言わないのですけれども、ほかの人たちが食べ物おいしいとか、いろいろな良い部分を紹介してくださったのでよかったと思っています。

あと、これを見て、今の映像も見て思ったのが、私は新潟アサヒアレックスアイスアリーナが最初にできたときにも行かせていただいたのですが、見る側というか、国際大会とか、テレビで見ているものと比べると観客席が少ないので、見るスポーツとしてはどうなのだろうということは、たしか以前にここでも言わせてもらったことがあると思います。今、視点を変えて見られたのが、練習するスペースとしては、国際規格であるからこうやって国際大会の選手も呼べる、あまり広すぎなくて、実は練習するには丁度いいのかなど。いい意味で丁度いいということです。それをとても感じました。これからももっと、日本国内も含め、プロとして活躍する人も含め、たくさんの方々が新潟アサヒアレックスアイスアリーナ

を利用できるように声をかけてもらいたいと思います。そうすることで、先ほどジュニア強化という言葉も出ましたけれども、アイスリンクが整ったハード面があることで、やはり選手は育っていくと思うので、新潟市はそこをととても大事にしていっていただきたいと感じました。

(事務局：渡邊)

大変ありがとうございました。新潟アサヒアレックスアイスアリーナの大きさですが、観客席が、先ほどもご説明がありましたけれども、450 から 480 人くらいの観客と、反対側はサブリンクとの間にもう少しあるのですけれども、合わせても 1,000 人に満たないくらいの席なのです。その部分については、今回、こういった合宿のときに、もっと大きい、観客席がたくさんあるようなリンクにすればよかったのではないかというご意見も、実は、いただいたのです。そういうご意見もあったのですけれども、建設するときに、当然、経費の比較をします。いつも大きい国際大会が開かれるような会場であればまた別なのでしょうけれども、我々、新潟市の中で、一般市民の皆さんにも使っていただきながら、上級というか、メジャーな、世界的な選手なり、国内でもトップレベルの選手が来て、そういったものを見せていただいたり教えていただいたりということもできるような、両方がある程度の部分で両立できる、バランスを取れるような部分でと考えると、今の新潟アサヒアレックスアイスアリーナの規模かなということで大体落ち着いたわけです。それで建設させていただきました。そういう意味では、本当に今の小島委員のお話は、大変私どももありがたいと思いますし、そのように感じていただければ、私どもとしてもよかったと思います。リンクそのものは国際規格ですので、これからもトップレベルの選手を呼んでいきたいと思っています。

先日も 4 周年記念イベントということで、競技生活からは引退されたわけですが、村上佳菜子さんをお招きしました。今井遥選手もそのときに最後の滑りということで、されたわけですが、そういった機会でも、ぜひご覧いただければと思います。また、見ていただくだけではなく、使っていただければと思いますので、ひとつよろしく願いいたします。

(田村委員)

今、フィギュアスケートでしたけれども、せっかくカーリングの施設があるので、今回、カーリングはとても人気が出て、施設もカーリングができる場所ということで注目を浴びているところなので、私たちの熱が冷めないうちに、そだねーの女子を呼んで、もう少し注目していただけて、そして、彼女たちが来たところだということで、また、いいのではないかと思います。

(事務局：渡邊)

本当に「そだねー」だと思うのですけれども、なかなかそこは選手の日程的なものもあり

ますが、カーリングについては、先ほどのスライドで見ますと、今回の合宿のときは全部床を張って使えないようになっていましたけれども、その間、実は、競技団体の皆さんからご理解いただきまして、そういう形で使用するのはやむをえないということで、カーリングの競技団体の皆さんからご理解いただいたうえで、今回、やっています。

カーリングについては、先ほども申しあげました予算説明の中でありましたけれども、今年度は車いすカーリングの全国大会を新潟でやるということで、5月下旬ですけれども、全国からチームの皆さんがいらっしゃいます。また、今回の平昌オリンピックで惜しくも予選で終わりましたが、男子のSC軽井沢クラブの選手の皆さんは、実は、新潟に2回ほど、昨年、一昨年と来て、ジュニアの選手の皆さんなどに指導していただいているのです。そういった形で、トップレベルの選手も新潟においでいただいて、実際にカーリングをやっていると思います。それはまた平成30年度もできればやっていきたいと思います。平昌オリンピックが終わったばかりですので、選手もなかなか、日程とか、今後どういう形で活動されていくのか、まだ見えない部分がありますので、またそこは予定が立ち次第、広くお知らせして、皆さんに参加していただいたり見ていただいたりしたいと思います。

(五十嵐委員)

今ほどはありがとうございました。とても素晴らしいロシアのフィギュアスケート選手とのつながりということで、本当にこれはよかったと思います。せっかくこのようにロシアのフィギュアスケート選手と、新潟とロシアは姉妹都市ということで、関係があるということで、このあと、どのようにつながりを持てるのかという可能性を探っていくことはとても大切だと思います。

平昌が終わって、この次是北京ですね。北京になると、今度は同じ緯度ですね。新潟と同じような高さのところに北京があるわけで、もしかするとこのようにロシアのベテラン選手が日本に来て、新潟に来て、とてもいい成績を残せたということであるならば、これからもこの関係を持つような形で、ロシアのフィギュアの方々に働きかけていかれたらどうかと思います。

先ほど、カーリングの人たちがとても地元の人たちに歓迎されたということですがけれども、せっかく新潟で練習してメダルを取ったないしは成績を上げた。冠のイベントが何かできないだろうかという場合に、ちょっとした歓迎会みたいなことをやってあげて、おめでとうみたいなことをやってあげれば、それをきっかけに、もしかするとそういうものにつながり、イベントなどももしかしたら可能性があるのではないかということで、新潟で練習してある程度の成績を取れたということで、ちょっとしたイベントなどをやると、すごい効果があるのではないかと思います。アリーナも、恐らくは、観客席という声は、先ほどお話しされた

ように、費用対効果を考えるとなかなか観客席までというのは、当然、維持費の問題で大変だと思うので、このような形で合宿で使って、あるいはイベントなどで使ってアピールするのが、そういう施設を造っていくうえで、ひとつ重要なことだと思います。

(事務局：渡邊)

今後、ロシアとの関係については、新潟とロシアの3都市とは姉妹都市の関係がありますし、これから合宿も含めて、文化交流もそうですけれども、やはり交流を進めていければと思っています。

北京オリンピックの話についても、今回、平昌オリンピックの合宿誘致が成功したのは、やはり時差がなくて、しかも直行便が新潟から仁川に飛んでいるという、非常にメリットとあります。アドバンテージがあったからだと思います。北京の場合だと、1時間の時差があって、現状、直航便はないわけですが、その辺り、次の2022年に向けてそこがうまく、何らかの形で解決されていけば誘致活動もできるのかなと思っています。もちろん、それまでの間に私どものほうでも積極的にロシアと今後ともお付き合いさせていきたいと思っていますので、働きかけもしていきたいと思っています。

あと、ロシアに限らず、先ほども予算で出ましたけれども、フランスとホストタウン登録していますので、そういったところをターゲットにしながらやっていきたいと思っています。

(太田委員)

大変素敵なプレゼンテーションをありがとうございました。そして、新潟がもともと冬というスキーで有名なところなのですから、新潟市はやはりスキーというよりもこういう冬のスポーツが盛んになってくるといいなと思います。

今、それぞれの委員がおっしゃったと思うのですが、まず、競技ということでフィギュアとかカーリング、前はスピードスケートを国内でナショナルチームの方もやりました。そういう競技というところで、私が知っている範囲では三つなのですから、それと国内、国外と、合宿ですとか、そういう年間を通じての、どのような競技とか国内外の割り振りという大きなスケジュールがダブルブッキングしない形ですでに組まれているのでしょうか。分かる範囲で教えてください。

(事務局：渡邊)

平成30年度については、まだ平昌オリンピックが終わったばかりということもあると思うのですが、今のところ、氷上スポーツは各競技団体とも具体的な動きはまだ見えない状況です。もちろん、今、我々もそうですし、新潟市文化・スポーツコミッションもそういった競技団体に行って、その辺り、ずっと密接な関係を持っていますから、情報を随時得ながら組んでいきたいと思っています。

(速水委員)

今、非常にいいことがずっと話し合われてきたと思うのですけれども、平日に活用できるような施設、一年中通してスケートができるわけですね。去年、新潟市のスポーツ事業に対して評価する会議に出させてもらったのですけれども、学校で、クラスで行きたいのだけれども遠くて行けないと。行くにはバス代とかいろいろほかの料金がかかってしまうのぞという話が出たのです。もしできるのであれば、そういう面でも支援してもらえればという話が出ました。

(事務局：渡邊)

氷上スポーツの関係については、年に1回ですけれども、学校から来ていただいて滑ってもらうという事業がすでにあるわけです。先ほど申し上げました広告料収入などの新たな財源がありますので、そういうものを増やす、増やさないというのは少しそれは検討していくところだと思いますが、そういうことも含めて検討させてもらえればと思います。

(菅野委員)

先ほどのプレゼン、どうもありがとうございました。私は新潟市と姉妹提携を結んでいるハバロフスクに四、五年前なのですけれども、新潟市の事業として国際青年会議とかそういうような名前だったと思うのですけれども、若手経営者の代表として行かせていただいて、マイナス25度くらいのロシアのハバロフスクのアイスアリーナなどを見学させていただきました。その施設と比べても、やはり新潟アサヒアレックスアイスアリーナは、もちろんできたばかりということではあると思うのですけれども、充実した施設なのかなということはとても感じました。

ただし、ジュニアの育成に関して言うと、やはりどうしても日本全体として、ロシア全体としても差がとてもあるのかなと感じています。ロシアのほうでは子どもたちに関してはほぼお金がかからない形で各指導が受けられるということ。ただ、日本に関しては、やはり習い事文化といったものがあるので、月謝をいくらか支払うという形で、なかなか習いごとを始めるにもハードルが高いという部分は、競技によってだと思えますけれども、あると思います。その中でフィギュアスケートというのは、やはり始めることに関して言うと、ほかの競技よりも少しハードルが高いのかなと思っています。お金の面に関してです。新潟アサヒアレックスアイスアリーナを見ても、占用利用すると1時間当たりメインリンクで2万円、3万円とかかってしまいます。さらに競技力を向上させるためには占用利用もしなければ、なかなかオリンピック級の選手は育てこないのではないかと思います。ただし、そうなるとなかなか経済効果がといったようなジレンマがかなりある子どもがたくさんいるのではないかと思います。新潟市のフィギュアクラブがいくつかあると思えますけれども、

私もその中の一つとかかわりを持たせていただいています、やはり、そういった子どもたちがとても多いのです。そういったことも予算の中に入れていただければとか、そういったご検討をいただければとてもありがたいと、ずっと聞いていて改めて思います。感想が一つです。

あと、質問としては、新潟アサヒアレックスアイスアリーナの収支に関しては、今、どのような状況なのか、分かる範囲で教えていただけるとありがたいと思います。

(事務局：渡邊)

先ほどの広告料収入ですが、そればかり言っていて何なのですかけれども、ひとつ、これから新たな事業を始めていけるというか、新たにそういったプラスの部分を生み出していけるという意味では、非常に貴重な財源を今回作れると思いますので、そういったものも活用しながら、占用利用の料金を下げしてほしいという要望も私のほうでも聞いております。その辺りを含めて考えさせていただければと思います。

あと、新潟アサヒアレックスアイスアリーナの収支については、私どものほうでは一切指定管理料であるとかそういったお金は通常の運営の中においては入っていません。今、指定管理者が独立採算で運営している形になっていますので、そういう意味では、今のところ非常にうまく行っているのではないかと考えています。

(西原会長)

時間がおしているのも、もしありましたら、最後のところでご意見をいただければと思います。

新潟アサヒアレックスアイスアリーナについては、いただいた意見を参考にさせていただいて、事務局でよろしく願います。

最後、4のその他に入ります。委員の皆様から、全般にわたってご質問やご意見がありましたら願います。

(小島委員)

2点、質問というか何というかなのですが、1点目が、私は日和山小学校に職員として勤務していて、この4月から豊照地区スポーツ振興会と舟栄地区スポーツ振興会が一つになり、日和山校区スポーツ振興会になります。私もミニバスケットボールにかかわらせていただいているので、体育館の利用団体として会議に出させていただきます、ずっと疑問に思っていたことがあります。地区スポーツ振興会のあり方というか、そもそもの成り立ちも分かるのですが、今現在、日和山校区スポーツ振興会に至っては、スポーツ振興会の中で予算が市から降りてきます、何かイベントのようなものをやります、やりましょう、やってくださいと。私の中では、スポーツ振興会の本来はイベントをすることではなくて、地域に住んでいる皆

さんがスポーツする環境を作るのがスポーツ振興会の役割なのではないかとその場でも言わせていただいたのですけれども、何となくイベントをやることみたいな雰囲気、今、なっているのではないかと思います。ほかのスポーツ振興会がどうかは分かりません。

あと、そこにプラスされるのが、子どもたちを対象に、子どもたちにこんなことを企画し、子どもたちにやると言われるのですけれども、特に日和山小学校区は日和山小学校の児童が340人しかいません。高齢化率40パーセント超えです。子どもたちに対するイベントをやっても、なかなか子どもたちが集まらない。集まらなければ地域から文句が出るということの繰り返し、今、スポーツ振興会だけではなく、ほかの団体からも子どもを集めてということが多いため、そもそも、スポーツ振興会ができてどれくらいになるでしょうか、改めて1回区切りをもつみたいな機会をそれぞれのスポーツ振興会ではなく、行政から一声かけてもらえるととてもありがたいのではないかと感じました。それは一利用団体として感じたことです。それが一つお願いです。

もう一つ、先ほどのもやもやというものが、ジュニア強化についてです。今ほどスケートにお金がかかるということを知りました。私はミニバスケットボールにかかわっているのですが、今年度からジュニア強化ということで、予算については、多分、体育協会から、バスケットボールであれば新潟県バスケットボール協会が県のミニバスケット連盟、市のミニバスケット連盟という形で降りてきていると思うのです。バスケットボールだけで考えても、結局、強化で選んでやったから金を出せみたいな感じなのです。強化に選ばれた子どもは、今回は前期、後期で1,000円ずつ払っています。平成30年度は1回練習に出るたびに600円払ってください、月に1回は必ず練習会を開きなさいと。とにかく選んでやっているみたいなところがとてもあって、それがバスケットボールだけなのか、それとも、ジュニア強化というのはいろいろな種目があります。サッカー、野球、バドミントンもテニスもみんなだと思えるのですけれども、ほかのスポーツのことも何か知る機会があるといいなと思います。

ここで言うべきことかどうかわからないのですけれども、ジュニア強化に対する予算がある程度しかないのに、スポーツ団体はものすごくたくさんあります。そうすると、一つの団体にかけるお金は減るわけです。結局、落とせるお金は少ないから選手たち、子どもたちからみんなお金を集めて、結局、指導者に対する報酬もバスケットボールはとても少ないのです。時給に換算すると200円くらいしか降りてこないみたいなことだったのです。お金うんぬんではないのですが、強化について、新潟市は全部のスポーツを強化するのか、それともある程度、新潟市だったらここを伸ばせる、新潟市の子どもたちはここで、例えば、また東京オリンピックもあるので、東京オリンピックを目指せるとか、特化してやるのか、何かそういうところも行政として平たくがいいのか特化するのがいいのか私もよく分からないのですが、

ここ何か月か、強化についてはとてもここでもやもやしています。単にお金を下ろすだけではなく、その先まできちんと見てほしいし、スケートも含めてですけれども、何のための強化なのかよく分からない。お金をこちらがたくさん出して、ほかの国との違いもあるのでしょうけれども、お金をかけてもそれに見合うものが、その先4年後、6年後にあるから、多分、親はお金をかけます。そこに甘えるのではなくて、行政も、国が考えなければいけないことなのかもしれないですけれども、ジュニア強化を安易に大きくくくらないで、もう少し細かく、きちんと各団体に説明をしてほしいと思います。

(事務局：鈴木)

今ほどの小島委員が言われていることなのですが、多分、県のバスケットボール協会とか日本バスケットボール協会の登録料とかそういう話の部分と勘違いされている部分があるのではないかと思います。

(小島委員)

勘違いはしていません。

(事務局：鈴木)

市の中で全体で27団体、通常のジュニア強化ということで、今、予算的には670万円ほどで、バスケットボール協会であれば35万円のジュニア強化ということで、ミニバスケットボールと中学校に35万円をお上げして、その中で年間を通してジュニア強化をしていただいています。今は35万円なのですけれども、それプラス、ジュニア強化をする場合に施設費も年間10回くらい、市の体育館をジュニア強化という形で使ってもらっていると思うのです。鳥屋野総合体育館とか東総合スポーツセンターを1日使えば四、五万円になりますので、それプラス50万円くらいのお金が各団体に行っているかと思います。

27団体ある中で、A、B、Cということでランクづけさせていただきまして、団体がきちんと定期的にジュニア強化をやっているかとか、どういう形でジュニア強化をやっているかということでヒアリングをさせていただいて、その中でAランク、Bランク、Cランクという形で金額を決めさせていただいて、Aランクであれば50万円、Bランクであれば30万円以上という形で決めさせていただいています。前にも話がありましたけれども、球技ですとかニュースポーツ系もありますし、全体で27団体に助成金という形で出しています。

それから、今ほどのオリンピックに関してのことですが、これについては、うちのほうで3種目、今年から3種目になりますけれども、今まで2種目、ボクシングと柔道を東京オリンピックの開催が決定した中で、新潟から日の丸を背負った選手が出てほしいということで、ジュニア育成ということで、今度は子どもたちをある程度絞らせていただいて、その子どもたちを東京オリンピックまで追いかけていこうという事業を始めました。なかなか、市のほ

うに、申し訳ないのですが、何千万円というお金を予算要求したわけなのですが、予算が全くつかない、ゼロ回答だったという中で、体育協会のなけなしのお金で、100万円くらいなのですけれども。1種目75万円プラス25万円で一つの競技100万円で東京オリンピックに向けたスーパージュニア育成をやっております。今年は新たにもう1種目増やしまして、バドミントン競技もその中に入れて今年は東京オリンピックに向けていきたいと思います。オリンピックはこれで終わりではないので、東京オリンピックの後も続けていきたいと考えています。

(西原会長)

今の話も、公に公開していくことが大事かもしれないです。なかなか一部の方しか知らないかもしれないので。

(事務局：渡邊)

スポーツ振興会の関係については、今、スポーツ振興会はそれぞれの区の地域課の文化・スポーツ係などで主に所管してやっているのですけれども、それぞれの地域によって成り立ちも違いますし、地域ごとに実情が違うと思うのです。その辺りがそれぞれの地域ごとで考えて、ある程度何をするかという部分も含めてやっていってもらいたいところではあるのですけれども、ただ、もちろん、我々としても全くかかわらないわけではないので、そこはやはり各区の情報交換、それこそ早い内にやっていく中で、ほかの地域でのスポーツ振興会というのはどういうことをやっているのかといったもの、好事例などを聞きながら、取り入れていただけたところは取り入れてもらうというようなことを進めていく必要があるのではないかと思います。この辺りは、そういったご意見もいただきますが、スポーツ振興会のあり方を考えるべきではないかということと言われていますので、そこはこれも次年度の課題になってくるのではないかと考えています。そこはこれから勉強させていただきたいと思えます。

(西原会長)

ありがとうございました。スポーツ振興計画を次に考えるときにスポーツ振興会のあり方はもう一度考えなければいけないのではないかと思います。小島委員がおっしゃったように、単にイベント消化ではなく、市民とか地域住民のスポーツの生活化をどうやって促すかということです。それもスポーツ振興会がやるべきなのかどこがやるべきなのかを含めて考えなければいけないですね。

ほかにいかがでしょうか。

少し時間がオーバーしてしまいましたが、いろいろご意見をいただきましたので、それを反映させていただければと思います。

議事についてはすべて終了しましたので、司会を事務局にお返しします。

(司会：寺崎)

西原会長には円滑に会議を進行していただきまして、ありがとうございました。また、委員の皆様からは貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。本日頂戴しましたご意見を今後の事業に生かしながら、またさらに積極的な取組みに努めてまいりたいと思います。

閉会に当たりまして、課長よりごあいさつ申し上げます。

(事務局：渡邊)

本日は、長い時間にわたりまして、活発なご議論をありがとうございました。私どもも平成30年度、また進むべき道を、皆さんからのさまざまな貴重なご意見を基にして考えてまいりたいと思います。

今、この場で申し訳ないのですが、実は、私はこの3月末で異動になります。4月からは教育委員会教育総務課になりまして、先ほど速水委員から言われたので非常に私も驚いていたところです。この春からは、先ほどのお話により近いところにまいります。

また、新任の課長もまいります。新任は、今、政策調整課という企画部門の課長補佐をやっている者が昇任でまいりますので、新スポーツ振興課長とよく連携を取りながら、今後進めてまいりたいと思っております。

事務局からのお話で申し訳ないのですが、私のほかに、田中課長補佐も異動になります。田中課長補佐は広報課の広報戦略室の室長ということで、4月1日からまいります。鈴木新潟市体育協会事務局長も黒崎市民会館の館長に赴任されます。そして、渡辺拓也管理係長も介護保険課に異動になります。私を含めたこの4人は4月から別の場所でお世話になることがあるかと思えます。また、残った課の者も来年度の審議会でもたいろいろお世話になるかと思えますが、またご意見をたくさんいただければと思っておりますので、どうぞひとつよろしく願いいたします。

本日は、どうもありがとうございました。

(司会：寺崎)

以上をもちまして、平成29年度第2回新潟市スポーツ推進審議会を終了させていただきます。

本日は、まことにありがとうございました。